
ポテトチップス

柚森揚羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポテトチップス

【Nコード】

N7483B

【作者名】

柚森揚羽

【あらすじ】

ポテトチップスを食べるカップルの話

俺の分のポテトチップスを盗ろうと、伸びてきた腕の丁度手首の辺りを捕まえる。

「あーあ。もう少しだったのに」

隣の女性は捕まった右手の指を、バタバタさせて、悔しさをアピールする。

「さつきコンソメ味食べただろ。それに、うすしお味は嫌いじゃなかったのか？」

「足りないんだな、私には」

彼女は風間美紀という、俺より一つ年上の高校三年生。

外見も話し方も、年齢相応なのに、行動、仕草は子供っぽく、大きな幼稚園児みたいだ。

「足りないんだな、じゃねえよ。少食のくせにスナック菓子ばかり食って……」

そんな美紀を、どこか危なっかしいから放っておけない、という理由で、自宅に上げている俺も甘い。

こんな八畳あるかどうかのマンションの一室。狭いと思う。美紀いると特に。

「颯輝君、もしかして心配してくれてる？」

美紀は俺の名前を呼んだ。

「もしかしなくても心配してるよ。彼女なんだし」

「お姉さん嬉しいなあ」

美紀はもの凄い笑顔で、ベッドの上でジャンプをしてる。下の階の人に迷惑だから止めてほしい。

「心配せざるを得ない、と言った方が正しいか？心配したい訳じゃないしな」

「颯輝君、ちょっとひどくない？」

「はいはい。ポテトチップスやるから暴れるなよ」

美紀にポテトチップスの袋を差し出す。

あまり食べてなかったから、結構残っている。「あまり食べると太るぞ?」

「私は細いからね。そんな脅迫に怯みはしないよ」

美紀は細い。自慢できるような細さではない。

病的に細いのだ。

原因は、超偏食と少食。

早い話、栄養不足。

本人は元気だから良いんだろうな。

「やっぱコンソメに限るよ」

「文句言うなら食うな」

取り上げた袋の中身は空だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7483b/>

ポテトチップス

2011年10月3日20時07分発行